

平成28年度島根県立農林大学校学校評価(まとめ)

●教育の目的
次代の島根県の農林業をリードする農業者及び森林管理技術者の養成

●基本方針
 ・高度な農林業技術と専門的知識を習得し、経営管理能力を養う。
 ・広い視野に立って農林業を考え、技術革新、経営改善に積極的に取り組み、新しい農林業を創造する能力を養う。
 ・先見性を持って流動的な社会情勢に対応するための分析力、判断力、行動力を養う。
 ・農林業生産及び農山村社会におけるリーダーとして必要な指導力、企画力、調整力を養う。

●重点目標
 ①意欲ある学生の確保
 ②教育内容の充実、強化と実践力の養成
 ③進路指導の充実と進路意識の高揚

No.1 評価 A:達成した B:概ね達成した C:やや達成していない D:達成していない

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
教育目的及び基本方針・重点目標	教育目的及び基本方針・重点目標の職員及び関係者への周知	教育目的、基本方針、重点目標が周知されており、それを意識した取り組みが行われているか。	オープンキャンパス・高校訪問、関係機関会議等で周知を徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で協議、周知している。 オープンキャンパス、学校説明会等で、本校の目標を十分に説明している。 学生募集要項に専修学校ではないことを記載し、周知を図った。 	A	○常に重点目標を意識した取組を行う。	
学校運営	適正で計画的な予算執行	適切な予算執行がされているか。	優先順位をつけて適正に執行している。	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算の中で、常に必要性、緊急性を考慮しながら執行に努めた。 【総務】緊急性の高いものは本庁協議を行い、新たな予算確保を行うようにした。 	A	○次年度予算枠が減少されるため、より効率的な予算執行に努める。	
	情報・課題の共有化	運営会議・スタッフ会議、専攻内打ち合わせ等で情報の共有化が図られているか。	専攻内の情報共有や専攻間で共有すべき事項については、できる限り早い段階で伝達するよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の運営会議やスタッフ会議などで得られた情報は、専攻ミーティングで情報の共有化を図っている。 学生指導面での情報については、その日のうちに各専攻に伝えるようにした。 	A	○引き続き情報共有を迅速に行う。	
	個人情報の管理	個人情報等の管理が適切に行われているか。情報漏えいがないか。	重要情報のパスワードを強化。個人情報管理には一層の徹底が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 「マイナンバー制度」の運用が始まり、農大版の特定個人情報等の取扱規程(H28年4月)により、個人情報管理を徹底している。 教務の一角に学生相談室を設置し、プライバシーが守れる環境を整備した。 	B	○「マイナンバー制度」運用実施状況により、取扱規程の見直しを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○取扱規程の策定に当たって、専門家等の指導等は受けられたか。 <ul style="list-style-type: none"> →総務課、情報政策課の指導により、県の管理規程に従って農大版を作成。データも限られた職員のみが県サーバーのマイナンバー管理フォルダーで管理。 ○情報管理は想定外のリスクに対応するもの。引き続き、多様な面に配慮した情報管理を。 ○マイナンバーの提示が各方面で求められている今、一番の不安は個人情報の流出でその管理の徹底が必要。 ○相談室の設置は評価できる。
	職員研修の充実、職員の資質向上(体系的な研修、校内研修)	国、県、農業大学校協議会等の主催研修への派遣は適切に行われているか。校内で必要な研修会が開催されたか。	職員研修を実施した(「発達障がい理解と対応」)	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り、国主催の研修や農大西日本ブロック研修等への参加により他県との情報交換や資質向上に努めている。 研修会参加には業務の調整がつかず、研修に参加できない場合もある。 	B	○必要な職員研修については、要望を取り入れながら実施していく。	○発達障がいの研修については、基本的なところは必要。
情報発信	ホームページ、フェイスブックその他の活用	農大生活、行事、入試情報等計画的に紹介するなど、積極的に農大のPRを行ったか。各専攻毎にホームページ・フェイスブックの更新を月1回以上行ったか。	<ul style="list-style-type: none"> 行事ごとのタイムリーな情報発信に努めているが、ホームページ更新やフェイスブック投稿は、専攻間に差がある。 H27年度:ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間62件。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページに新規コーナーを設け、「学生の声」を掲載し、毎月更新している。(6月～) 「農大の動き」を毎月発行し、ホームページへ掲載、県内高校、関係機関、法人協会へメール発信。 メディアを通じた情報発信(もっと×もっとしまね:TSK)(しまねっと「きりりキャンパス」:NHK) ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間73件。 林業では、独自にブログを活用し日々の授業や実習、各種行事の様子を情報発信。 専攻毎のホームページ更新やフェイスブック投稿については、取り組みに差がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページへの「学生の声」掲載は写真なども追加し継続して実施していく。 ○校内全体として、ホームページ更新に力を入れていく。 ○メディアへの情報提供を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNSの活用は学校の魅力発信、学生募集には欠かせない重要なツール。 ○「農大の動き」はビジュアルであり、学校理解にもつながり効果的であると思う。 ○「学生の声」は文字情報だけであまり魅力的とはいえない。内容も肯定的な意見が目立ちお手盛り感をぬぐえないと感じる。→キャンパスライフの情報や写真も入れるように工夫したい。 ○「学生の声」の掲載は非常に良いこと。掲載に当たって何かルール化等があるか。 <ul style="list-style-type: none"> →週直当番が順番に提出。内容は自由。 ○「学生の声」を読むと、農大で学ぶ意義を考え、満足感を感じていることがうかがえ、意欲面での動機付けは向上しているように思われる。 ○HP等は発想が内向きになりがち。第三者とのやりとりが見える形になれば理想的だが、かなり難しい課題。当面、関連業界(第一次産業関連団体)のHP等との連携を考えてみては。 <ul style="list-style-type: none"> →全国農大協や県庁との連携のみ。今後検討するが、特定の団体との連携は難しい。 ○生の学生の声や新しい情報は出来るだけ更新し、メディアへの情報も継続すべき。 ○農大HPのトップページをもう少し魅力的にできないか。 ○学校そのものの名前が知られる努力を。 ○農林高校へリンクやQ&Aがあれば、学校の特徴が分かりやすい。動画も効果的。
学生募集	情報提供、説明会、高校訪問、オープンキャンパス、報道機関の利用等	様々な手段を講じて農大の情報提供を行い関心を高めたか。定員以上の応募者があったか。	<ul style="list-style-type: none"> 前年オープンキャンパス3回実施、参加総数51名。高校訪問1回目30校、体験入りに力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス4回実施、参加総数73名であった。(前年比143%) 高校訪問1回目39校、2回目5校、高校ガイダンス参加8回、農大説明会1回実施。また、農業高校との連携会議に6回参加した。特に花き専攻学生募集に力を入れた。 農大学生募集・PRチラシを作成し、普及部を通じて地域の生産部会等への働きかけを強化した。 林業科への募集を目的とした高校訪問を実施し進路指導担当の理解を得た(県内12校)。 益田管内の高校生を対象とした「林業科サテライトキャンパスin高津川を開催し、林業科への入学を促した。 農大概要説明時にDVD(動画・写真)を活用して視覚的に訴える工夫をした。 入学試験受験者が増加した。(前年比122%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパス実施回数は引き続き4回とする。 ○TV放映をDVD化し、あらゆる場面で活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○精力的に実施されている。 ○オープンキャンパスは学生募集には有効だが、内容の充実を常に図らないと逆にがっかりしたというような声も聞く。常に改善することが重要。 <ul style="list-style-type: none"> →専門高校の生徒には物足りないかもしれない。最新情報を入れるよう掛ける。 ○積極的に取り組まれていると思う。例えば、ケーブルテレビへのアプローチ等を検討されたら如何か。→検討したい。 ○高校教員の農業、林業の実状に対する理解はまだ不十分。当面、教員の理解を深めることが課題。同時に、オープンキャンパスや出前講座等で、生徒に対して第一次産業の魅力を伝え続けていくことも重要と考える。 ○選択肢を広げる意味で普通高校へのPRが必要では。→林業科においてサテライト校と位置づけ普通高校で実施。 ○オープンキャンパスは学校に関心をいだく人たちに有効で、DVDの活用や卒業生の体験談は呼びかけにより迫力が加わる。 ○DVDの活用についての反応は?良い効果がでているか? <ul style="list-style-type: none"> →学校の様子が良く分かり、理解につながっていると思われる。 ○HPへ動画提供(Uチューブ等)してもよいのでは。→編集作業が課題となるため今後検討

改善方法
検討

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
学習成果 (指導)	学生の基礎学力の定着、授業改善、授業研究、授業を実施するにあたっての共通事項の実践	分かり易い授業が行われたか。学生による授業の肯定的評価が上昇したか。定期的な基礎学力テストが実施され、それに伴うプリント学習の充実が図られたか。	基礎学力は専任職員が対応している。学生による授業評価をフィードバックした。(年2回)	・学生による授業評価を職員・外部講師へフィードバックしている(年2回)。 ・農文協の「ルーラル電子図書館」の利活用を職員・学生へ推進している。 【農業科】 ・基礎学力向上のためのテスト(年2回)と補習(随時)を専任職員が実施している。 ・学年毎に曜日を決めて定期的な補習体制を実施。(年間指導時間:延べ60時間) ・食堂に新聞を置いていたが、見ている学生は少ない。 ・花きでは、園芸各論Ⅰ・Ⅱの学習内容を見直し、2年間一貫した授業とした。フラワー装飾未経験者が、2年間でフラワー装飾技能3級と2級を取得できた。 【林業科】 ・必要に応じ「振り返りシート」の作成や小テストを行い、不十分な点がある場合、補習を行うなど学力の定着に努めている。	B	○HRや授業開始までの時間を活用するなど、読書や新聞を読む習慣を身に付けさせる方法を工夫する。 ○新任職員の授業を参観して教え方をチェックする。	○社会を知る上でも新聞を読んだり読書をするのは大切。 ○新聞、読書がなぜ必要かというところからの学生指導が必要では。 ○新聞を使った授業を月に何度か取り入れてはどうか。コミュニケーション能力向上や知る喜びにもつながる。面白いが楽しいに繋がり、感じる心を育ててほしい。 →工夫したい。 ○「かっこよくて、感動があり、金儲けができる」近代農業が実感できるような学習、施設設備の充実が最も重要ではないか。 →牛舎の改築や高性能林業機械更新への働きかけも実施。ハウスのモニタリングシステムも導入(生育育環境を肌で感じることを基本として指導している) ○農林大学校の最も重要な項目であり、農大職員のみならず農林水産部挙げて創意工夫に努めなければならぬと思う。 →時代に合った教育が必要。ICTなど新たな講師の確保など今後検討。 ○座学においては学習の反復が効果的で、例えば各授業の初めに前時間の学習内容のミニテストを行い、その後、時間内に答え合わせ等を行う方法も有効ではないか。 ○外部講師の活用状況はどのような現状か。 →課業の約3割を外部講師に委託(うち6割が県職員(現職2:OB1)) ○学習の目的としては、第一義的には技術修得・向上ということになるが、職業として関わることを想定すると、さらに経済活動の一環としての情報収集能力を高める訓練が必要となる。 ○生産活動は社会の動向によって左右されるものであり、書籍やメディアから情報を読み取るための訓練が必要。このことは、国が進めようとしている「専門職業大学」への衣替えを目指す場合には必須の要件となるのではないか。 ○農業は6次産業化などいかに有利に販売するかが経営にも大きく貢献していて、そうしたリーダー育成に力を注いでもらいたい。 ○即戦力に力を注ぐあまり、安全がおろそかにならないよう安全作業指導を。
	栽培から販売までの能力育成、学生の理解度・技術力・管理能力・経営能力の向上、実習の充実	専攻毎に学生に対し自己目標を設定させ定期的に評価できたか。第三者(農家留学等)による学生の評価を有効に活用できたか。	各専攻毎の特色に合わせた実践教育をすすめている。農機メンテナンス研修、草刈り実習等の実践的技術の重点指導を実施。	【全体】 ・地元農業組織と連携して2年生の草刈り実習を実施した(6月) ・全体としては、自己目標の設定や農家留学等の体験先からの評価活用が不十分。 【有機】実習では学生の担当作物は自分で作業の手順を考え実践させている。ほかし肥の作成など有機栽培独特の技術も習得した。 【野菜】概ね1年生の6月以降主担当作物を決め、責任を持って栽培から出荷まで行い、全員目的意識を持って卒論PJに取り組んでいる。 【花き】1・2年生をとおして同一品目で卒論に取り組む試みを行い、2年間じっくり栽培に取り組める内容となった。 【果樹】就農後必要になるハウスや果樹棚等施設の修繕技術の習得を図った。果樹は収穫までに年数を要することから、作物を育てる心を醸成するために果菜類の栽培もさせている。 【肉用牛】肥育牛の出荷成績を分析することで、成績が良かった点、悪かった点を評価し、今後の飼育管理の改善に役立っている。 【林業】機械操作実習では、操作技術の目標達成シートを作り、個々の達成状況が分かるよう工夫した。	B	○就職先決定後は、それぞれの就職先で即戦力となれるような実践的教育を個別に実施する。 ○自己目標の設定、農家留学等体験先からの評価活用を意識させる。	
魅力ある教育活動	農家留学、地域農業実習等	学生の成長に資するものになっているか。農家留学・地域農業実習を各専攻4回以上、学校全体で24回以上実施したか。	即戦力の学生が求められるため、実践的な学習の強化を図っている。校外学習:学校全体で28回実施。	【全体】 ・農業科全体の校外学習は7回実施。地域農業実習を各専攻とも3回以上実施し、学校全体で36回実施。 ・2年生の約1ヶ月間の農家留学は9月を中心に実施。雇用就農希望先を中心に、先進的な技術を有する農家等を選定し、進路対策に結びつけている。 【有機】専攻独自の1年生の「地域有機農業体験実習」(5日間)では、有機農業を実践する農家体験を実施し、有機栽培への思いや、有機農法の基本を学んだ。 【花き】地域農業実習では、農家見学だけでなく作業実習(きくの作業:年3回)にも取り組んだ。 【肉用牛】農家留学での評価は良く、2名の雇用就農が内定した。地域農業実習は先進農家、市場視察等を中心に4回実施。 【林業】関係機関や森林組合等の協力を得て体験学習等の実践的な教育を行った(8回)。	A	○校外学習により農林業技術・経営の視野を広げ、実践的な学習ができる環境を整えていく。	
	担い手育成研修、実践研修、教員研修、森林施業プランナー研修、林業エンジニア研修等	受講者の技術や能力の向上に資することができたか。担い手研修・実践研修受講者の就農率が8割を超えたか。	各研修毎の目的に沿った受講者を確保するため、応募動機を十分考慮した上で選定を行っている。受講者の期待は高まっている。H27年度研修生就業率:90%	【社会人研修修了者】担い手育成研修2名、有機実践研修2名、野菜実践研修5名、研修生就業率89%。(以下詳細) (担い手育成研修)花き部門で研修生2名が受講中。鉢物栽培に関する基本的な知識を得ることが目的であり、講義と個別指導で課題解決を図っている。 (有機農業実践研修)研修生2名の受講に対し、計画的に座学及び実習指導を行い、受講生の技術向上及び有機栽培への意識醸成につながったものと考えられる。 (野菜実践研修)研修生5名は基礎的内容の座学と実習を実施。 【教員研修】県内外小中高から30名の参加があり、農林業に関する体験の機会を提供した。 【林業エンジニア研修】林業事業体の要望も踏まえ、既就業者を対象とした研修を実施。参加者26名 【農福連携研修】障害者施設の指導員を対象とした研修会を実施した。参加者8名(果樹、野菜) 【中学校技術教育講座】中学校の技術教員への野菜づくり指導を通じて農大をPR。参加者17名	A	○研修生募集の周知PRを強化し、研修生確保を図る。 ○教員研修を通じて、農の魅力伝える工夫をする。	○農大が魅力的になることは、すなわち島根の農業が魅力的になること。島根の農業を支える人材育成に一層力を注いでほしい。 ○以前に比べ研修部門はかなり充実してきていると感じている。 ○受け入れ態勢との関係もあるが、研修生募集のPRが不十分と感じる。 →PRIについてさらに工夫していきたい。 ○研修の後、就農先で修得した技術が十分活かさない人がいるが、研修終了後の適切なアドバイスや研修生同士の定期的な交流の場も設けてほしい。 ○今後は普通高校とも連携して出前授業をしてはどうか。将来の職業の選択肢として農業を考えてもらえるよう農業の魅力、面白さを伝えてほしい。
資格取得	難関資格試験の合格率向上、営農や就職に有利な資格取得の促進、資格取得特別講座等	学生は資格取得に意欲的か。農業技術検定3級全員合格、2級50%以上合格することができたか。	学生の取得意向を確認し、各種資格を取るよう仕向けている。H27年度:農業技術検定合格率:3級94%、2級43%、1級1名、大特90%、けん引60%、フォークリフト48%、車両系建設機械47%、小型移動式クレーン45%	【全体】農業技術検定(3級:90%、2級:31%、1級1名)、大特89%、けん引54%、フォークリフト38%。 【有機】希望進路に必要な資格をはじめとした資格取得を推進し、各種資格取得が進んだ。 【花き】フラワー装飾技能検定2級1名合格。色彩検定3級に1名合格。 【果樹】学生7名の内、3名が毒物劇物取扱責任者資格を、2名が危険物取扱責任者資格(複数類2名)を取得済み。 【肉用牛】削蹄師の受験準備のため、外部講師を招いて4回の特別講習を実施。2月の家畜人工授精師養成講習会に備えて実習も実施中。 【林業】林業に必要な資格は取得できるようカリキュラムを組んでいる。資格取得に必要な知識や技術が不十分な学生に対しては、個別に補習し知識や技術の定着を図った。	B	○ステップアップできる資格取得については、入学当初から促していく。 ○農業技術検定の目標合格率達成のための指導を徹底する。	○資格取得は生徒の「学びへのモチベーション」をアップさせる大変有効な手段であり、実践力の向上、農大の魅力化という点からも重要である。 ○資格取得は社会に出てからも有効な武器になることを、今後とも学生に十分理解させて取り組んで欲しい。 ○引き続き、学生の資格取得への意欲向上についての努力をお願いする。 ○簿記も取り入れてほしい。 →農業経営、簿記演習(ソリマチ)も実施している。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
就農・就業支援(進路指導)	学生の進路に対する意識の醸成、動機づけの早期化、面談、アンケート、就農ガイダンス、就職セミナー	1年次後半の進路目標決定がされたか。多数の求人情報の収集がされたか。関係機関への情報提供は十分されたか。自営・雇用をあわせた就農・就業率が50%を超えたか。	1年次後半の進路目標決定を目指し、動機づけの早期化を図っている。普及部、地域再生協、さらには農業法人との連携強化を図っている。H27就農・就業率70%	【全体】2年生の就農・就業率55%(1月末現在)。6月の就農ガイダンスに36名(86%)の学生が参加。就職セミナーを2回実施(7月、2月)。卒業後の就農状況確認の実施(3ヶ月後及び1年後)。1年次後半に進路目標が決定できるよう早めに面談を行っている。 【各専攻】 ・1年次3月の三者面談を基に、学生との面談の機会を増やし、学生の希望する雇用就農・就業先での短期間のインターンシップや9月の体験学習につなげている。 ・自営就農希望者へは、関係機関と連携し、施設の確保や就農計画樹立等に向け活動。 ・求人情報の提供は積極的に行っている。	A	○1年のうちから学生面談を複数回実施し、早い段階での進路検討を行う。 ○法人協会と意見交換を行い、それを活かした対策を進める。	○就農100%を目指して頑張ってもらいたい。 ○農業や農村社会の実情等を十分に理解していない学生に対しての進路指導については、大変難しい点があると理解している。ただ、農業農村の担い手育成の主要機関で有り、今後とも粘り強い取組をお願いしたい。 ○進路選択にあたっては、インターンシップ等の現場での実体験が大きな判断材料になる。 ○可能な限り、実習(体験・意見交換)の充実を。 ○自営就農は地盤がしっかりしていないと厳しいものもあり、その定着率が気になる。 ○農業法人など若い後継者を求めているところが多く、頼りになる人材を育ててほしい。 ○中学校のキャリア教育への参入など、新たな取り組みに期待したい。 ○卒業後の支援体制は、別に県との協議が必要と思う。
学生指導	寮の自主的運営、農大祭等	学生が寮の運営を自分のこととして考えられているか。農大祭に学生が自主的に関わることができたか。	寮の一斉清掃日を定めているが、不十分。リーダーの資質をもった学生が少ない。自治会、農大祭の運営については、職員のリポートが必要。	・「整理整頓は生活の基本」を掲げ、専攻、寮での活動目標としたが、成果は十分とはいえない。 (学生自治会で毎週月曜日昼休みに寮共同場の一斉清掃を行っているが、徹底できていないのが現状) ・農大祭や今年初めて実施した運動会、また島根県を会場とした中国ブロック農大生のつどいでは、学生間で役割分担を決め取り組むなど自主的な運営が見られるようになった。	C	○評価内容に「あいさつ、時間厳守、整理整頓等マナーの徹底」を追加し、社会人としての資質向上を図っていく。	
	防災・事故・外部対応等に対する体制の構築及び周知徹底、健康で健全な学生生活	危機管理に対するマニュアルは周知されているか。学生自治会主体の防災訓練が実施されたか。心身が不安定な学生への適切な対応がなされたか。	学生の交通事故発生件数:H27年度6件 実習中の事故:2件 学生自治会主体の防災避難訓練が不十分である。 定期的に健康相談を実施している。	・交通安全・防犯講習の実施(6月) ・交通事故発生件数:H28年度6件(自損4、他損2) ・防火・避難訓練の実施(本校男子寮、女子寮:4月、飯南寮:12月) ・女子寮に防犯カメラを設置し、セキュリティ確保のための防犯機能向上を図った。 ・新入生の入学をとりえ危機管理マニュアルの周知を行ったが、入学当初に交通事故が発生したため、随時指導が必要である。 ・熱中症による救急搬送が1件発生。職員・学生への予防対策周知を徹底した。 ・護身術講習会を開催(1/19)。	B	○交通安全・防犯講習会の実施を年度当初早めに行う。 ○寮の自室への鍵かけを徹底する。 ○自治会主体の防災避難訓練の実施を促す。	○交通安全意識の醸成については、引き続き十分な取組を希望する。 ○防災とは少し観点が違うが、今日、地球規模で発生している気象災害(異常気象現象)等への学習はどのような状況か。 →「農業気象」の中で気象予報士資格所有職員による講義及び各専攻での指導により対応。 ○健康維持、防災対応は社会生活を営む上で、常に考えていかなければならない事。学生が主体的に考えることができるような指導を。 ○来年度は林業科へ女子学生が入校するようなので、トラブルのないよう配慮願う。
地域交流	地元小中高との交流、地域活動への参加	地元の保幼小中高の受け入れができたか。地域へ出かけての活動や地域との交流ができたか。	体験受け入れ、花育、食育、地域の催し等、色々な場面で地域交流に取り組んでいる。 H27年度:体験受入11回、見学受入6回	【全体】小中高の体験受入れ12回、地域からの見学受入れ7回を実施した。 地域の農業祭への参加(4回)。 春の農大市場(4月)、農大祭(7月)、秋の農大市場(11月)など農大でのイベント実施。 【有機】出雲市で開催されるオーガニックマルシェへに4月から11月に毎月参加し、有機農業への理解や消費者交流を積極的に進めた。11月には波根文化祭へ参加した。 【野菜】地元直売所への出荷などの販売活動。柳瀬文化祭、たてがみの郷文化祭参加 【花き】地元保育園児を対象とした花育を実施。しまね「花の郷」のイベントに1つとして「農大フラワーアレンジメント体験」を実施し93名の参加があった。高校への出前授業時に学生同伴し実習時の交流を実施。(遷摩高) 【果樹】地域の消費者を対象にしたぶどうの栽培教室を開催予定。苗づくり、仕立て方(3月) 【肉用牛】「放牧仕上げ熟ビーフ」を販売することで、中山間フェア参加 【林業】中山間フェア、赤名湿地の保全活動に参加。飯南寮生は、地域の祭りに参加。 海岸林再生植栽活動予定(出雲市湖陵町:2月)	A	○食育や花育、木育、「美味しまね認証」等の視点を大切に、引き続き地域交流活動に積極的に参加する。	○「農大の動き」で「まちなかマルシェ」の記事を読み、農業の6次産業化を意識させる良い試みだと思う。一層の高度化を期待する。 ○地域交流活動は社会人教育の観点からも様々な効果が有り、今後とも可能な限り積極的な取組を。 ○近隣の保育園や小学校等に体験農園等があれば、可能な範囲でその指導等を定期的に行うこと等も、学生が農業技術を身に付ける点でプラスになる。(人に教えることによる自己啓発の効果は大きい) ○地域交流も学生にとっては貴重な学習の機会である。引き続き、積極的な取り組みを。 ○学校周辺の地域交流になっているが、未開催地での交流の計画はできないものか。 →教育の一環として交流を実施しているため、その趣旨に沿ったものであれば進めていく。 (単純な物販等は対応困難)
教育環境	圃場・施設・設備の充足度、機械・機器の充足度、維持管理、整理整頓、廃棄	農業機械、施設、機器の適切な管理運営が行われているか。実習棟、機械庫等は整理整頓がされているか。共有機械等の維持管理が適切に行われているか。農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われているか。	新肥育牛舎が建設され実践牧場の放牧場の整備も進んだ。(11月) 低コストを目的とした竹活用簡易ハウスやトンネル栽培等を導入。 耐用年数を過ぎ老朽化した高性能林業機械の更新ができなかった。	・本館女子トイレを改修し、多機能型のトイレに変更(3月) ・体育館耐震化工事終了(8月) ・新繁殖牛舎の建設工事(8~2月) ・本館・農業研修館の非常用照明取替え工事(8~10月) ・整備舎の改修工事(9~1月) ・実践牧場稲わら乾燥庫の進入扉改修工事(11月) ・男子寮の排水管改修工事(10~12月) ・整備舎、格納庫等整理整頓に努め、不要品等の処分を実施したが、施設全般の美化、維持管理に一層の努力が必要。 ・高性能林業機械の更新に向け働きかけを行っている。	B	○予算等に合わせ、計画的な施設管理に努める。 ○施設の老朽化が見られ、必要に応じて施設管理者(西部県民センター)と協議しつつ機能維持に努めていく。 ○高性能林業機械の更新に向け調整を図る。	